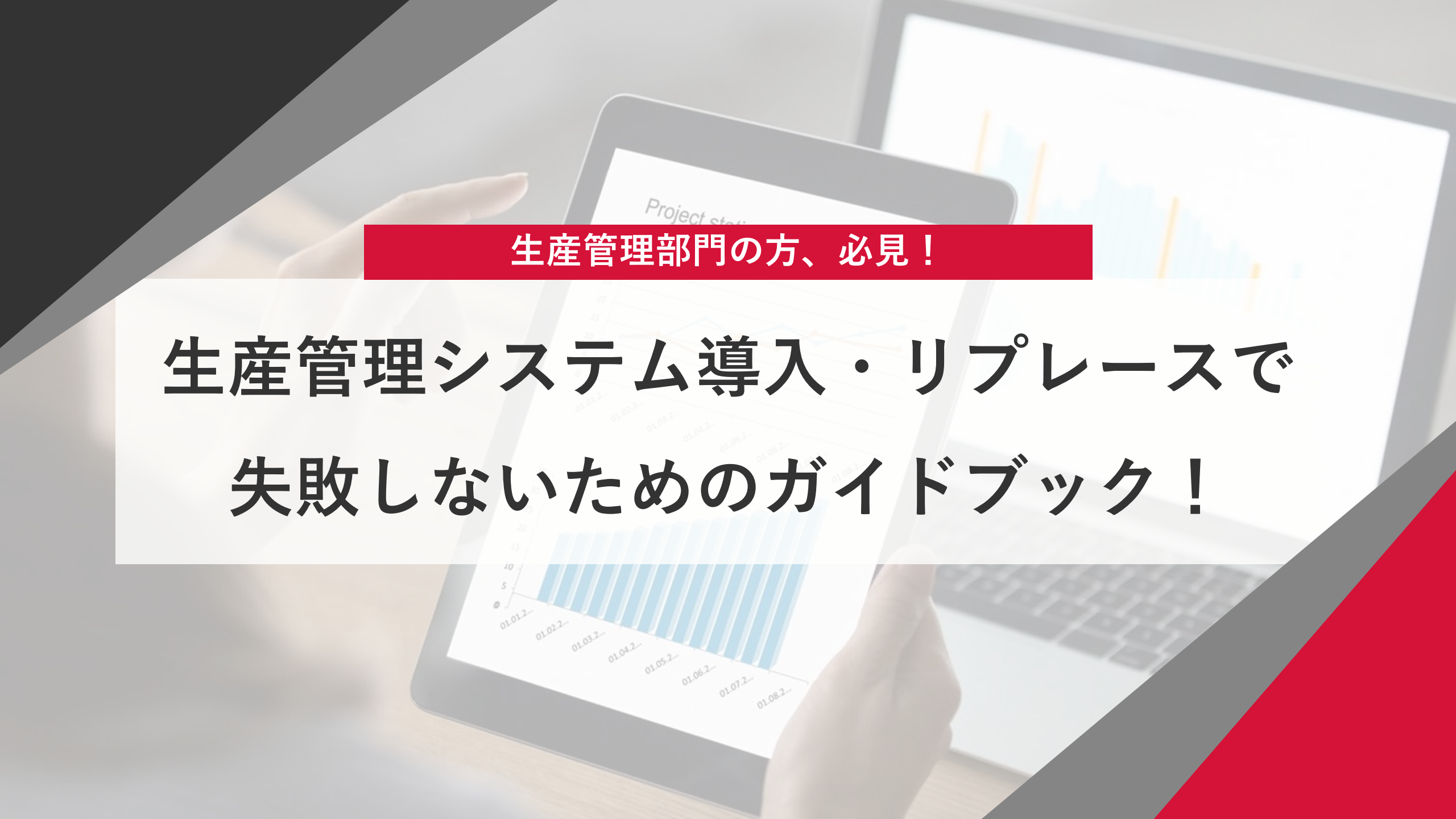




生産管理部門の方、必見！

生産管理システム導入・リプレースで 失敗しないためのガイドブック！

目次

生産管理は企業の利益に関わる重要な業務です。しかし、業務面や経営面でさまざまな課題があり、これらの課題解決のためには“生産管理システム導入”による生産活動の可視化、ノウハウの共有・テンプレート化の促進が必要不可欠です。

本書では、生産管理における課題について触れた上で、生産管理システムの導入・リプレースで失敗しないための選定方法についてご紹介します。

本書の内容が役立つ読者

- ✓ 生産管理において課題を感じている方
- ✓ 生産管理システムの導入を成功させたい方
- ✓ 生産管理システムの選定方法を知りたい方

目次

【Chapter1】 生産管理におけるよくある課題

- 生産管理におけるよくある課題
 - ↳ 業務編
 - ↳ 経営編
- 生産管理における課題を解決する方法

【Chapter2】 生産管理システム導入で、失敗しないための選定方法

- 生産管理システム導入で、失敗しないための選定方法

【Chapter3】 日立ソリューションズ・クリエイトが提供するサービス

- 日立ソリューションズ・クリエイトとは
- TPiCSのご紹介
- お問い合わせ

Chapter

1

生産管理におけるよくある課題

生産管理におけるよくある課題

生産管理は企業の利益に関わる重要な業務です。

しかし、正しい生産計画が立案できないことや、製造コストを把握できないことなど、さまざまな課題があります。

生産管理で発生しやすい課題は主に2つに分けられます。

生産管理における業務課題



実際の業務課題は多岐にわたります。適正な材料・部品仕入れ計画、仕掛品を含む在庫管理、工程ごとの加工時間の記録など、日々の生産のために取得すべき情報が多く、管理が煩雑になりがちです。

生産管理における経営課題



生産管理システムを導入している企業は多いですが、システムの老朽化や、運用ノウハウの継承ができないなど経営課題を抱えています。

次頁からは生産管理における業務課題と経営課題についてそれぞれ紹介します。▶▶▶

生産管理におけるよくある課題 ～業務編～

5

業務工程が多岐にわたる製品の製造において、現場の状況把握が難しくなっています。
ここでは生産管理でよくある業務課題を8つ紹介します。

生産管理における業務課題

01



生産活動を標準化できない

02



人的ミスが発生する

03



不良率を管理・改善できない

04



製造プロセスを最適化できない

05



正しい生産計画を立案できない

06



過剰在庫が発生する

07



部署間・工場間の連携がスムーズにとれない

08



製造コストを把握できない

前項のような業務課題を解決することを目的に、システムを導入/検討される企業は多いです。
しかし、下記のような経営課題にも目を向け、将来にわたって継続的に利用できる仕組みを意識することも非常に重要です。

生産管理における経営課題

01

 システム老朽化

既存システムやツールのサポート終了により、新たな仕組みを検討せざるを得ない

02

 業態の変化

取引先や取扱製品の増加、法改正に既存システムでは対応しきれない

03

 運用ノウハウの継承

業務およびシステムに詳しい有識者が限られており、退職後の運用が不安

次章では、このような課題を解決する方法を解説します。▶▶▶

生産管理における課題を解決する方法

7

生産管理における課題を解決することで、業務効率の改善や生産性の向上につながります。
課題を解決するには、「生産活動の進捗を可視化」「ノウハウの共有・テンプレート化」を推進する必要がありますが、それを実現するには、**生産管理のシステム化が不可欠**です。

生産管理における課題を解決する方法

生産活動の進捗を可視化する

現場の状況が把握できなければ「なぜ不良率が高いのか」「なぜ生産性が低いのか」といった改善点を把握できないため、生産活動の進捗を可視化することが必要



ノウハウ共有・テンプレート化する

業務が属人化してしまうと担当者の負担が大きくなり、担当者不在の際にカバーできる人材がいなくなってしまうため、ノウハウを共有・テンプレート化することが必要



生産管理の“システム化”が必要不可欠

生産管理における業務課題・経営課題を解決するためには

生産管理のシステム化が不可欠である

生産管理システムには、生産計画機能、資材管理機能、販売管理機能、仕入管理機能、製造管理機能があり、業務効率の改善や生産性向上につながる



次章では、業務課題と経営課題の両面を意識したシステム選定のポイントを解説します。▶▶▶

Chapter

2

生産管理システム導入で失敗しないための選定方法

生産管理における課題を解決するためには、どのように生産管理システムの選定や手順を踏めば良いのかをご紹介します。
6段階のフローで導入の選定を行います。

失敗しないための生産管理システム導入

01

業務課題の整理

今現在、現場で起こっている問題や課題を整理する



- ◆ システムの利用頻度が高い部署から重点的にヒアリングを行う(生産管理部、調達部、製造現場リーダー、班長クラス)
- ◆ 課題の発生している業務に紐づく具体的な情報も併せて整理する(拠点、部署、起票者、対象となる事業や製品、システムがある場合は画面や帳票など)
- ◆ 自社独自の業務と思われるものは、より詳細に整理

02

導入の目的と求める結果の明確化

業務課題のヒアリング結果を整理、生産管理システム導入後の理想的な状態を明確化する



- ◆ システムを新規導入・リプレースしたが、すぐに経営環境（事業再編や海外進出など）が変わり、システム見直しが必要になっては元も子もありません。経営層の考える将来的な経営環境の予測や事業方針なども考慮しながら、導入目的と理想を設定します。
- ◆ 導入目的を経営層と合意しておくことで、検討の手戻りの防止とスムーズな意思決定につながります。

03

優先順位をつける

導入目的を設定後に、現状のシステムや環境では足りない機能や要件を全て洗い出す



- ◆ 各項目にMustかWantか優先順位をつける

1から3に加え、予算と導入スケジュール、導入方式やベンダーの選定も重要なポイントです。

失敗しないための生産管理システム導入

04

予算と導入スケジュールを立てる



- ◆ 全ての要件を満たすシステム導入となると、費用が膨大になってしまったり、導入完了までのスケジュールが長期間に及んだりする可能性があるため、自社に適切なシステム導入に必要な予算と導入完了までの希望期間を予め決めておく

05

導入方式の決定

	既存	パッケージ	スクラッチ
コスト	-	○	×
機能の実現範囲	△	○ +アドオン	○
将来性・拡張性	-	◎	△
メンテナンス・保守	△	○	×

- ◆ 複数製品の情報収集を行い、大まかな実現機能、コスト、導入期間を把握する

06

ベンダーの選定

システム・ベンダーによって実現できること、できないこと、導入までの費用はさまざま



- ◆ 1～5でまとめた内容を基に、システムとベンダーを選定する
- ◆ システム費用だけでなく、ベンダーの導入作業対応範囲と費用をしっかりと確認し、すり合わせをしながらシステムとベンダーの選定をする

次章では日立ソリューションズ・クリエイトが提供するサービスについてご紹介します



Chapter

3

日立ソリューションズ・クリエイトが提供するサービス

日立ソリューションズ・クリエイトは、お客さまのベストソリューションパートナーとして、変化を的確に捉え、新たな価値の創出に貢献する会社です。製造業向けシステム導入案件の取りまとめ経験豊富なPM/PLと、専門性の高いSEのチーム構成でプロジェクトを運営しています。自らDX推進してきたノウハウとサービスを共有し、持続可能な生産管理を支援します。

日立ソリューションズ・クリエイトの生産管理システム導入支援

パッケージを極限まで積極活用

- 上流工程において、製造業の業務知識が豊富なSEが、パッケージに合わせた現状業務の改善も含めて提案することで追加開発を削減
- エグゼクティブSlerのノウハウにより、豊富で複雑なマスター・パラメーター設定を適正に提案しパッケージ適用率を向上
- アドオンを極力抑制することで、リプレース費用やメンテナンス負荷を低減し持続可能なシステムを提供

豊富な外部連携経験でシステム全体を最適化

- より高度な管理が必要とされる生産管理では、CADや生産スケジューラーとの連携も提案可能
- 生産管理以外の周辺システム（会計/受注EDI/販売/BIツールなど）についても、日立グループ商材を含めた幅広い提案が可能

日立グループの高い品質

- 日立グループとして規格化されたプロジェクトマネジメント（※HIPACE）により、さまざまなリスクを考慮したプロジェクト運営が可能
※HIPACE（ハイペース）：システムを効率よく開発し、高品質なITサービスを提供するために体系化された日立製作所のシステム開発方法論
- 担当スタッフのほとんどがSE歴10年~20年以上のベテランで、お客さま特性に合わせたプロジェクト推進を実現

TPiCSは30年以上前にリリースされ、合計2,041社に導入実績のある生産管理パッケージです。
企画工程から本番切替まで、TPiCSの経験豊富なSEが、貴社の生産管理システムの習熟・導入をサポートします。
導入後のお問い合わせ対応や、新しい機能利用のご相談受け付けなど、導入後のシステム活用までサポートします。

TPiCSの特長

豊富で柔軟な生産管理機能



生産計画、マスター、工程管理

製造業に特化したパッケージ



追加項目・画面帳票レイアウトの変更で適応

「将来の課題解決」に向け 進化するパッケージ



不安を払拭することが可能なパートナー！生産管理導入の際は、日立ソリューションズ・クリエイトにお任せください！

お問い合わせ

この度は、本資料をお読みいただきありがとうございました。

生産管理システムの導入は製造業においても、今後のスタンダードになってきます。

スムーズな導入で、生産の無駄をなくし、業務の効率化を実現をサポートします。

TPiCSについての詳しい情報や、ご質問など、お気軽にお問い合わせください。

WEBからのお問い合わせ

<https://www.hitachi-solutions-create.co.jp/solution/tpics/>

※上記TPiCSサイトの「お問い合わせ」からお願いします

メールによるお問い合わせ

hsc-contact@mlc.hitachi-solutions.com

ご相談、ご依頼いただいた内容は、回答などのため、当社の関連会社（日立ソリューションズグループ会社）および株式会社日立製作所に提供（共同利用含む）することがあります。取り扱いには充分注意し、お客さまの許可なく他の目的に使用することはありません。

提供会社

会社名

株式会社日立ソリューションズ・クリエイト
Hitachi Solutions, Ltd.

本社
所在地

〒140-0002
東京都品川区東品川四丁目12番6号

設立
年月日

1976年（昭和51年）4月

代表者

取締役社長 南 章一

主な
事業内容

システムの設計、構築、運用、保守、
コンサルティング
ソフトウェアパッケージの開発、販売
各種ソフトウェアの受託開発
情報処理機器の販売、保守
タクシー決済サービス
ドキュメント制作、翻訳
UX/UIデザイン、Webデザイン、
プロモーションデザイン